

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 1階

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100170		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホーム たんぽぽ 1階		
所在地	〒020-0142 盛岡市稲荷町2-5		
自己評価作成日	令和2年12月日	評価結果市町村受理日	令和3年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花壇や周りに様々な花を植え入居者様が職員とベンチに座り花を見たり摘んだり楽しませられている。住宅地に立地している為花を通じて通りがかった近隣の方々と話が弾んだりしている。施設内は日が差し込むことと木がふんだんに使われており温かみのある建物になっている。転倒骨折事故のリスクをクッション床を導入する事により軽減するよう配慮し、緊急避難時備え各居室にベランダを備えている。感染症への対策として清掃方法は、オフロケーションシステムを導入し掃除用具を色分けするなどし清潔保持や洗浄効果等に配慮している。トイレや浴室、居室、廊下の手すりには防カビ・殺菌・消臭効果を目的として光触媒を加工している。利用者は一人一人の生活のリズムに合わせクラフト・編み物・パズル等行いのびのびと生活して頂いている。利用者様がお手伝いに参加したり、ご自宅で過ごしているようなりラックスできる空間を設け、利用者様同士や職員と一緒に談話出来る温かみのあるグループホームを目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人で定めた理念に加え、事業所独自に年間目標や四半期目標を設定し、更に職員で話し合い、ユニット毎の具体的な行動目標も作成し業務に活かしている。特に地域との交流では、コロナ禍で制限がある中、運営推進会議に多くの地域の方々から委員として参加いただき、活発に議論され意見、情報を頂く等、良い関係が築かれている。その議論を活かし、コロナ禍が収まったら、地区の小学校の子ども達を招き、利用者と子ども達との触れ合いと小学生による「紙芝居」の読み聞かせ等を行うことを企画検討している。管理者は職員の気付きを大切に、些細なことでも「申し送りノート」に記入し、職員間での共有を図りプランの作成にも積極的に活用している。また、担任制ではあるが、「利用者」を複数の目で確認を「し対応」との方針で、職員全員で関わりながら、利用者の身体の変容を確認し早期に医療に結び付けるなどの効果を得ている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年1月20日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階・2階で基本理念に基づき内容を職員の目につきやすい場所に掲示している。管理者・職員が理念を共有するために確認するようにしている	法人の定めた理念の他、管理者と職員が話し合って事業所独自の年間目標と四半期毎の目標を作成しホールに掲示している。更に、ユニット毎に具体化した内容を作成し、職員トイレに掲示している。職員は、常にこれらを意識して支援に当たるとともに、全体会議で振り返りと確認を行い、その実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板で地域の行事・活動等確認している。地域の方々に運営推進委員になって頂き協力や助言を頂いている	コロナ禍以前は、地域交流の場として施設を提供し、健康体操などを行ってきたが、現在は困難な状況にある。町内会の方から、コロナが収束したら子供たちを集めて紙芝居などの交流を復活させようと話し合っている。施設で使う古新聞の提供を受けるなど、近隣の方々に気に掛けていただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々を施設に招き認知症の方を理解して頂いたり地域交流会を通じて地域の方々へ発信している。(今年度はコロナの影響もあり開催できず)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長・民生委員・近隣住民の方に委員に加わって頂き、行事や日々の生活状況を報告したり、委員からは意見やアドバイスを頂く等している。	地域包括支援センター職員や町内会長、地区民生委員をはじめとする地域の方々や利用者家族で構成され、2ヵ月毎に開催している。事業所の行事や利用者の生活状況に併せ、身体拘束が無かったことも毎回報告している。利用者の参加については、短時間でも可能か検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点や疑問点は都度介護保険課等に電話で問い合わせしている。また情報は、盛岡市役所などメール等で情報提供して頂いている	市の介護保険課には、疑問なことなど、電話やメールで、その都度照会しているが、丁寧に対応していただいております、良好な関係が築かれています。生活保護申請の関係で市の担当課が来訪することもあり、関係性を築くよう取り組んでいる。	

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、3か月おきに全体会議や勉強会等で身体拘束廃止マニュアルの内容説明や質疑応答を行っている。施錠に関しては防犯の為です。	身体拘束廃止の指針、マニュアルを作成しており、職員は、必ず通読し内容を確認することとしている。スピーチロックについては、特に注意しており、職員から強い口調が出た場合には、直ちに他の職員が間に入って対応する者を代えるなどしている。定期的な内部の会議、運営推進会議でも題材として取り上げ、身体拘束廃止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ユニット会議・リスクマネジメント委員会で討議し、些細なことでも見逃さないよう日々職員同士で注意を払い、未然に防げるよう努めている。又勉強会も開催している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な時は、担当者が市の職員と協力しながら対応している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約に関しては十分な説明をすると共に疑問や不安感を伺い理解して頂いた上で契約及び退去となっている。又、入居・退去後でも問い合わせに関しては丁寧に対応している。改定時は、書面で提示した上で問い合わせに関しては随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に家族代表に参加頂き、助言・協力を頂いている。又面会時や行事等の際に要望等を効くように努めている。その他にも、玄関にご意見箱の設置を行っている。日々発せられる言葉から利用者の希望・要望を汲み取るようにしている	コロナ禍で家族の面会も出来ない現状にあって、意見や要望を伺う機会が限られている。運営推進会議の報告書に併せて利用者の様子の写真を郵送した際や介護プランへの同意等を頂く電話で、要望や意見を伺うようにしている。	コロナ禍により、家族の意見等を伺う機会が少なくなっている現状を考慮し、介護の質の向上を図る上で家族の要望や意見は重要な要素であることから、何らかの方策を検討されることが望まれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会を設置し多面的な角度から話し合い全体会議にかけて反映している。要望書を作成し職員個々に意見・要望を聞く機会を設けている。	日々の業務の中で感じた事や気付きを大切にしている。職員の提案を受け、利用者のご飯の量や食材の刻みの調整を行ったり、嘔吐をなくすために食後の歯磨きは時間を置いて行うなど、支援の改善に反映させている。職員の要望を個別に聴く機会を年2回設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を中心とし職員が各々役割を持ち、やりがいや評価しやすい環境が作られている。又、講習会への参加や資格取得を積極的にバックアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップ勉強会委員が主体となり園外・園内研修を調整・実施している。資格取得のための研修等への参加に配慮した勤務体制とし、資格取得後は会社既定の手当を支給している。園外研修参加時には後日園内勉強会で報告し職員全体に反映している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の岩手地域密着サービス協会の会議や地域ケア会議・いわて地域密着型サービス協会主催の交換研修に参加している。(コロナの影響で見合わせ)		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時、事前面接時に本人や家族の心配事や不安を傾聴し状況把握に努めている。又、出来る限り本人も施設見学に来て頂き不安の解消が出来る様信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族状況を把握した上で困っている事、不安や要望を汲み取り支援の方向を決めている。面会時ために近況報告をし本人、家族の想いを大切に共に考え信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との面会、話し合い等で本人に合ったサービス利用の提供を自事業所のみでなく情報の提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の個性を活かし今できる所を大切に信頼関係を築きながら職員と共に生活をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院介助をお願いしたり季節の行事に参加して頂く等共に過ごす時間を大切にしている。また、外出・外泊の支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒になじみの場所へ出かけたりゴールデンウィークやお盆・お正月には自宅外泊で家族と過ごしたりお墓参りしている。(本年度はコロナの影響により面会・外出等制限している)利用者は定期的にお願している訪問福祉床屋の利用を喜ばれている。	以前は家族と一緒に墓参りをしたり、正月には外泊する等、馴染みの関係が保持されていたが、現在は困難な状態が続いている。3か月に1回来訪する福祉理容者が馴染みとなっている。利用者の「昔よく見たっけ。行きたい」の声があれば、ドライブを兼ね「高松の池の白鳥」を見に出掛けなど、馴染みの人や場所との関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの利用者様同士の交流に加え職員が間に入ることで他の利用者が交わり関りを築けるようクラフト作品をみんなで作り完成させ、達成感や喜び等を得られるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族や本人に合った環境等を紹介し今後のサービス内容の提案等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で何気なく話した言葉が本人の希望や要望であることがあるため見逃さない様にしている。利用者の行動や表情を観察し気が付いたことを業務日誌や申し送りノートに記録し職員間で共有している。	日々の生活の中で会話を大事にし、小さな事でも「申し送りノート」等に記録し、職員間で共有している。会話のできる人は2階は全員、1階は5名いるが、話すことが上手ではない利用者には、できるだけ話しかけながら表情や仕草から思いを把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の生活の様子を家族、担当ケアマネ、本人から伺い日常の会話や行動等から生活歴を把握するようにしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	週間トータルチェック表を元に排泄、入浴、食事量の把握に努めている。毎朝の体操時、毎食前に行っている口腔体操時の動きや表情、発声の仕方など変化を汲み取っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の支援の中で常にモニタリングをし申し送りや3か月ごとの会議を通じて介護計画を作成している。申し送りノートや介護支援経過を活用し、声掛けや接し方にばらつきが無いようにチームケアしている	日々の支援の中でモニタリングを行い、「申し送りノート」や3か月毎に開催される「ケース会議」を基に、計画作成担当者が介護計画を作成している。利用者への声掛けや支援の仕方に差異がないよう、職員それぞれが計画内容を確認、共有してチームケアに努めている。計画は3か月毎に見直しを行い、変更が生じた場合には、その都度、見直しを行っている。見直した計画は家族の了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、介護支援経過の記録にて本人の日々の変化を記録し都度対応している。申し送りノートを活用し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用できるサービスの充実を図っている。家族の状況も視野に置き現状を把握し事業所ができることを柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町内会長・民生委員に参加して頂き意見交換をする機会を作っており、近隣の散歩・地域行事に参加の際に情報を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の要望に沿っております。御家族が元々のかかりつけ医に受診する際には園内の様子を細かく報告している。必要に応じご家族同意の元専門医(歯科・皮膚科・爪切り)の往診をお願いしている。御家族が高齢や仕事の都合で受信が困難な場合は園で対応している。	かかりつけ医で受診している人は、1階、2階で11名、協力医を受診している人は7名で、うち3名が訪問診療となっている。かかりつけ医受診の際は家族同行としているが、都合がつかない時には職員が同行している。家族同行の場合には、日々の様子を記録した用紙を持参していただいている。皮膚科や歯科の受診を含め、適切な医療が受けられるよう支援している。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 1階

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は不在ですが急変時は協力医の指示で適切な医療を受けられるよう支援している。些細な変化を見逃さず早期発見に努めている。緊急性がある場合は救急車の要請をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、園での生活状況や、介護の方法を情報提供し、入院中でも病院担当者と連絡を取り合いながら支援している。必要なものを届けたり洗濯等の支援に努め、退院後はサマリーを活用し症状の変化に注意している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書にて指針を作成している。ご本人の意思を最大限に尊重し医師により終末期と判断された時は、ご家族・医師・職員担当者会議にてご本人に一番いい方法を検討している。また終末期の対応について御家族の意向を把握し方針を職員と共有しながら日常生活を継続している。	「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を作成しているが、これまで看取りの経験はない。終末期を迎えた場合には、医師や看護師、職員から家族に対し今後の対応について説明し、家族の意向に沿って利用者にとって一番良い方法を選択している。医療行為が必要になった時や状態が重くなって来た場合には、入院等を勧めている。事業所内の勉強会で急変時の対応を取り上げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成・掲示し職員間で共有している。また定期的な勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進委員の方々の協力を頂き年2回避難訓練を行っている。ハザードマップで浸水危険地域となっており、緊急連絡網、水害時の避難訓練等の自主防災訓練を行い、災害時対応できるようにしている。AEDを常備し、災害時用として米・水等の食料品を備蓄している。	運営推進会議に併せて委員の協力のもと、日中または夜間の火災を想定した避難訓練を消防署立ち合いで年2回実施している。市のハザードマップで浸水危険地域に指定されており、2階への垂直避難や車を利用した他施設への避難を想定しての水害対応の訓練も実施している。訓練を通じて利用者が使用したヘルメットが大きく、予め工夫が必要であることに気付いたとしている。お米、水、味噌等を3日分備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを大切に一人一人が分かるよう声掛けしている。居室入口に、暖簾・表札を掲げプライバシーと人格尊重に配慮している。気になる点は都度申し送り等で話し合っている。	利用者一人一人の生活歴や今までの生活状況を考慮した言葉掛けや対応に努めている。手を掛けられる事を嫌がる方、人との関わりを好む方それぞれに応じながら、また日によっての違いに合わせて、プライバシーを損ねないよう配慮して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居様が日々希望することや決定が難しいよう選択できるような声掛けで促している。玄関先のベンチで外気よくした際傾聴し、ご自分の思いを表現し自己決定できるような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースで過ごして頂けるようにしている。体調等を考慮・危険がある場合を除き御本人の思いに添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類の中から御本人の好みの洋服を選んで頂いている。2か月に1回訪問福祉床屋を利用している。毎朝お化粧品する方もおり、化粧品は無くなる都度職員が対応している。週に一度整容の日を設け支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合った旬の食材を使い盛り付けや食器も工夫している。お好みにより調理法を変えたりしている。必要に応じてトロミやミキサー食で対応している。食事準備・テーブル拭き・食器拭き等お手伝いして頂いている。	カロリー計算した季節に応じた献立を本社の食事で立て、5事業所同じものを提供している。行事食の年越しそば、おせちはホテルから取り寄せ、節分には恵方巻を予定している。また、月に2、3回お刺身も提供している。事業所では調理専門の職員が調理し、利用者一人一人に合わせて、量や食材の調理方法を変え対応している。利用者は、テーブル拭き、食器拭きを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人一人に合わせた食事量を考え提供している。水分を取らない方にはスポーツドリンク等提供し声掛けしている。むせ込み等ある方にはトロミ粉を活用している。ご自身で食べることの楽しみを援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや誘導で歯磨きをしている。必要な方にはブラッシングの提供をしている。状況に応じて家族同意の元、往診を受けている。夜間帯は義歯を洗浄剤に浸け清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立度の高い利用者様には定期的な声掛け。介助が必要な利用者様には定期的な誘導をしている。排泄チェック表を作成・記録し汚染の軽減ができるよう支援している。	2階の利用者は自立度が高く、ほとんどが布パンツと念のためのリハビリパンツを使用し、1階は布パンツ使用者が1名とその他の利用者はリハビリパンツを使用し、排泄チェック表をもとに、定期的に声掛けや誘導を行っている。失敗した時には、さりげない対応で失敗したという感覚を持たせないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽体操・歩行運動・腹部マッサージを行っている。水分補給や食物繊維の多い食品の摂取の工夫をしている。便秘薬の必要な利用者には主治医と連携し適切な便秘薬を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2・3度、午後に入浴している。その日の体調や本人の意思を尊重し入浴の声掛けを行っている。入浴しない日は就寝前の下着交換と共に清拭温タオルで清拭している。菖蒲湯・柚子湯で季節を感じて頂き、入浴を楽しいものとしている。	一人、週に2,3回午後の入浴としている。利用者の体調に合わせながら声掛けし、嫌がる人には、言葉掛けと対応を工夫して入浴を勧めている。利用者の異変に気付けるよう毎回違う職員が担当している。楽しい入浴になるよう季節に合わせて菖蒲湯、ゆず湯を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後のテレビ視聴や馴染みの利用者様との団欒で安心して就寝できるような時間を提供している。また、何回も同じことを確認される利用者様の訴えは傾聴したり安心できる声掛けで安眠できるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人一人の病気を把握しお薬説明書を参考に職員間で共有している。服薬介助時は服薬確認シートを活用し誤与薬のない様に努めている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 1階

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴を尊重してできることはやっています。食器拭き・洗濯たたみ等やっています。季節行事の準備(クラフト)等楽しみながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はコロナの影響で自粛しているが、天気の良い日は園周辺の花を摘んだり玄関先のベンチで外気浴等、今できることを支援している。例年お花見・紅葉ドライブ等行っている。	コロナ禍のため外出を自粛しているが、ドライブを兼ね、2,3人が交代で桜や紅葉、高松の池の白鳥を見に出掛けている。天気の良い日には、散歩や玄関先のベンチで外気浴をしたり、サンルームに座り、猫を愛でている。1,2階を行き来する事も気分転換に役立っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご自分で管理されている利用者様はおりませんが、買い物レクを企画し購入する機会を作れるよう検討している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	毎年利用者様の手書きの年賀状を送っている。郵便物や贈り物が届いた際はお電話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは快適に過ごせるよう温度・光・音に十分配慮している。食堂や玄関には季節を感じるような装飾、又利用者様と職員で協力し作成した塗り絵や貼り絵を飾り、廊下には行事で撮った写真を飾り思い出作りの工夫をしている。	エアコンと居室のパネルヒーターで温度管理され、快適に過ごせるよう配慮されている。食堂を兼ねるホールは、利用者が集える明るく広い場所となっている。2畳ほどの畳敷きの小上りは、腰を掛けたり、洗濯物たたみの場所として多目的に活用されている。壁面には、季節毎に職員と一緒に作成した貼り絵やぬり絵、製作物が飾られ、廊下には行事で撮った写真が飾られ、居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースがあり、そこで足を伸ばしたり新聞を読んだり洗濯たたみの手伝いをしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんぽぽ 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	入居の際使い慣れたものを持参して頂けるよう お伝えしている。居室にはパネルヒーターを設置 し都度温度管理を職員が調整している。	クローゼットとベッドが備え付けられ、この3月に はベッド全てが電動に更新する予定になってい る。各居室の入り口には、名前と写真が飾られて いる。居室には木製のタンスや家族写真、時計、 椅子などの使い馴れた物を持ち込み、居心地よ く過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境つ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるよう張り紙をしている。居 室入り口には表札に名前と顔写真を貼り、居室 前の表札を確認し安心して入られる利用者様も いる。		